

## デザイン教育研究会のおしらせ 2012-vol.2

事務局 日本デザイン専門学校 金子武志  
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷 5-7-3  
TEL03-3356-1501 E-mail kaneko@ndc.ac.jp  
デザイン学会 教育部会 URL <http://jssd.jp/modules/tinyd5/index.php?id=51>

テーマ 「子どものデザイン」から

発表者 大泉義一(横浜国立大学 教育人間科学部)

日時 2012年10月12日(金) 18:00～20:00

会場 東京都立工芸高等学校 第1会議室 東京都文京区本郷1-3-9

「基礎デザイン」という言葉にある「基礎」、そして「デザイン」というキーワードは、ともにその意味を規定し難いものです。あるいはその規定をどこまでも追もつめていく営みこそが、「基礎デザイン」なのかもしれません。

そもそも「基礎デザイン」とは“basic design”と訳されますが、一般的に「基礎」は“foundation”>“fundamental”であり、“basic”<“basis”とは「基本」のことを指します。「基礎デザイン」を考える際に、この語義に対する議論を避けて通ることはできないでしょう。

ここで、本部会にとってバイブル的な書のひとつである『デザイン教育大事典』(鳳山社・1989年)をみてみます。そこではデザイン教育の内容が、次のように整理されています。

「具体的な実用目的を考えるデザインと、教育上の立場から行われる基礎的な造形訓練としての構成(基礎デザイン、基礎練習、Basic Design などとよばれるもの)とが考えられる。(p.87)」

この立場によれば、「基礎デザイン」とは造形性を強調した学習であることがわかります。しかし続けて、そのねらいを「創造性を育てる」「造形的な秩序に対する感覚を育てる」「基礎技能の訓練」であるとし、このうち特に「創造性を育てる」こと、とりわけ「着想」への教育を重視していることも見逃せません。この「着想」とは、他にもない子どもたちが、自分たちの生活(これは習慣的なものでもあります)の中で、新鮮で柔軟な見方や考え方ができるようになることを指しているのです。ここにおいて、「基礎デザイン/Basic Design」が「モノ」の創造だけでなく、それに囲まれて生きる私たちの生活＝「コト」に対するまなざしをも包含するものであることがわかります。

以上のように、「基礎デザイン」という言葉には、「デザイン」そのもののあり様を揺さぶる契機を孕んでいるように見えます。本発表では、こうした「基礎デザイン」をめぐる悩ましい命題について、発表者である私が考え続けている「子どものデザイン」という概念を通して考えてみたいと思います。

[発表のトピックス(予定)]

- ・「子どものデザイン」という概念について
- ・DIY思想と「子どものデザイン」
- ・学習指導要領(図画工作・美術)
- ・いわゆる西欧型でない造形のあり様(ブータン王国の造形教育)からの示唆
- ・現代デザインと「子どものデザイン」の“接近”
- ・造形実験装置による巡回式ワークショップ・プログラム(アートツール・キャラバン)

大泉義一(おおいずみ よしいち)

東京学芸大学教育学部美術科グラフィック・デザイン専攻卒業。教育学修士。東京都立中学校、東京学芸大学附属竹早小学校に勤務。その後、北海道教育大学助教授を経て、現在、横浜国立大学教育人間科学部准教授。専門は美術科教育、デザイン教育、教育方法学。平成20年告示『小学校学習指導要領・図画工作』作成協力者。主な著書に『ベーシック造形技法』(建帛社)、『小学校教育課程講座・図画工作』(ぎょうせい)など。ゼミ生らと展開している巡回型造形ワークショップ『アートツール・キャラバン』が第5回キッズデザイン賞(フューチャーアクション部門)受賞。

**【会場へのアクセス】 前回と会場が異なりますのでご注意ください。**

東京都立工芸高等学校

〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-9 <http://koge-h.metro.tokyo.jp/>  
JR 総武線「水道橋」駅東口 都営三田線「水道橋」駅 徒歩1分

問合せ 東京都立工芸高等学校 森中香奈子(教育部会・事務局)

TEL03-3814-8755 E-mail morinaka\_k(at)koge-tky.ed.jp

.....  
デザイン教育研究会 vol.3のお知らせ: 2013年1月25日(金) 18:00-20:00 女子美術大学杉並キャンパス <http://www.joshi.ac.jp/>

「ゲスト+参加者による座談会」(ゲスト:鈴木安一郎先生(女子美術大学デザイン・工芸学科非常勤講師))

「基礎デザイン」をキーワードに、授業のプロセス、基礎デザインの位置づけなどについて、参加された皆様と座談会を予定しています。